

命と安全を守る闘いに国境はない



JR東で、青年労働者がスト(1/4)

青年運転士を運転から外し、駅員にさせる「ライフサイクル」制度に反対し、ストライキに立った青年組員。JR東は駅業務全体をJR本体から切り離し、別会社に外注しようとしている。このままでは若者の雇用も、駅の安全も崩壊する！

「自分たちだけでなく、未来ある後輩たちのためにも、おかしいことはおかしいと声を上げて、こんなものはぶっ潰さないと、いい未来は残せないじゃないですか！」

「(ストライキを決断した1番の理由は)先輩が声を上げて、後輩が声を上げられる下地を作らなきゃいけないと思うからです。そして、こういう施策はぶっ潰せるならぶっ潰さないといいないと思うからです」

(1月4日、JR水戸支社でストライキにたった青年運転士の訴えの一部抜粋)

〈貧困と戦争〉に「絶対反対」で闘おう！

朝鮮戦争阻止！ 韓国で1/23にゼネスト

キャンパスの皆さん。朝鮮半島で戦争が切迫する中、韓国で「戦争を進めるパク・クネ政権を倒せ」という労働者民衆の闘いが、ゼネラルストライキ（ゼネスト）となって爆発しようとしています。1/23（土）「パク・クネ政権にトドメを刺す」大ゼネストの決行が決まったのです。



「労働改悪阻止！
2千万労働者の生存を守るゼネスト！」

昨年、自動車産業で働く15万人がストライキで生産ラインを止め、パク・クネ政権が国会で進める労働法改悪を阻止するため、ゼネストに合流！ 正社員も非正規社員も団結して闘った。（写真は12/16、ソウル）

韓国の労働者は昨年4回ものゼネストを行い、パク政権を追い詰めてきました。韓国では労働者の5割（約1千万人）が派遣や契約社員などの非正規です。正社員と同じ仕事をしていても賃金は安く、社会保険が適用されない。

雇用も不安定でいつクビが切られるかわからない。そんな非正規職はこの日本でも4割に達し、社会を根底で支えています。

しかしパク政権と韓国財界はこれに満足せず、「より容易な解雇・より低い賃金・より多くの非正規職」に向け、国会で労働法を変えようとしてきました。これを阻むため、正規職と非正規職が職場から手を取り合って、何度となくストライキに立ち上がっているのです。

「安全第一」「命を守る」職場の復権を

韓国の労働者は雇用を守るだけでなく、職場の安全を守るためにも闘っています。1月15日、日本でもツアーバスが転落し14人が亡くなりました。犠牲者のほとんど



広島大学学生自治会

(委員長・森田寛隆)
E-mail: hirodai86@yahoo.co.jp
Blog: <http://hirodai86.blog.shinobi.jp/>

が大学生であり、怒りと悲しみにたえません。事故直後は運転手個人に責任をなすりつけようとしてしました。しかし次々とツアー会社・バス会社の違法行為が暴かれ、経営側の責任は明らかです。「輸送業＝人の命を預かる業務」という社会的責任より、会社のもうけが優先され、安全対策がないがしろにされ続けた結果が、この大惨事です。昨年の韓国セウォル号沈没事故とも背景は一緒です。

誰だって事故なんか起こしたくないし、命を奪う側にも立ちたくありません。しかし経営者にいつも従順な「イエスマン」であっては、労働者は事故を起こす側、命を奪う側に立たされます。それほど今の職場はめちゃくちゃです。「乗員・乗客の安全・命を守る」という当たり前の職場環境をつくるため、日本でも労働者は団結し労働組合をつくって、会社と闘っています。

職場から声を上げることは簡単ではありません。しかし、自分の労働に誇りをもち、仲間と人間らしく生きたいという思いが、労働運動を支えています。そこに国境の違いはないのです。



107人の命を奪った尼崎事故をくり返さないため、ＪＲの労働組合は「職場の安全確立」を掲げストライキで闘っている（写真は2014年4月19日、尼崎駅前にて）

戦争遂行＝「労働者の戦争動員」

こうした「職場の安全を守る」闘いの延長線上に、労働組合の戦争協力拒否の闘いがあります。

米日韓が準備している朝鮮戦争の作戦計画は、北朝鮮のみならず韓国をも戦場にし、沖縄を先頭に日本全土を朝鮮への出撃基地にしていくものです。

朝鮮戦争が始まれば、日本の港湾、空港、道路、海域・空域、電波は、軍事利用が優先。国家公務員・地方公務員だけではなく、NHK、民間放送局、通信、電力、ガス、商船、航空、ＪＲ、バス、大学といった公共機関の労働者も戦争に動員されようとしています。

職場が人を生かすため、安全や幸福のためではなく、人殺しに使われる。これが戦争です。しかしこんなデタラメな職務を拒否し、『戦争絶対反対』を掲げる労働組合のストライキには、実際の戦争を止める力があります。昨年、安倍政権の安保法制の強行成立に抗議し、日本でもいくつもの労働組合が「戦争協力拒否」を宣言しています。

雇用破壊、職場の安全破壊と闘う労働組合の闘いが、国境を超えて戦争を止めようとしているのです。職場の闘いは、この社会を根本から変える原動力です。



昨年9月18日、安倍政権の安保法制と辺野古への新新基地建設に抗議し、沖縄の港湾で働く労働者約300人がストライキに決起した。「法案が可決されても、戦争には加担しない。体を張って（戦争を）止めていく」と訴えた。

学生も大学ストライキで戦争を止めよう

「命や安全を守り、人々の役に立ちたい」。この気持ちは学生も同じです。しかし、防衛省が多額の資金をエサに軍事研究を公募し、多くの大学・研究室が応じてしまっています。カネと引き換えに「大学人の誇り」は捨てられ、その矛盾は現場の学生が担わされようとしています。労働者の戦争協力とまったく同じ問題が学生に問われています。

日本でも安倍政権のもと、雇用の破壊と職場の安全崩壊が進んでいます。社会全体がますます働きづらい、生きづらいものになっているわけです。しかし今、ＪＲを先頭に、社会を動かしている労働者が「非正規職撤廃せよ。全員を正社員に」と、非正規と正規と一緒に闘いはじめています。こうした労働組合こそ、学生の希望ではないでしょうか。

2016年は、韓国のように立ち上がり、日本でも〈貧困と戦争〉の安倍政権を倒す年にしましょう。学生自治会も、労働組合とともに未来を切り拓く立場から、広大ストライキからゼネストの突破口を開いていく決意です。ともに議論し、行動を起こしていきましょう。

☆『前進』新年号アピール学習会

貧困と戦争の時代に立ち向かう労働者・労働組合の新聞『前進』の、新年特別号に掲載された論文を学習し、私たち学生としてどうするか議論しましょう！（※飛び入り参加も大歓迎）

1月19日（火） 16：30～ 総科K208
1月21日（木） 16：30～ 総科K303

2月の行動予定

◇映画「A2-B-C」上映会

原発事故後、高線量下で生活する福島の子どもたち、その親たちを記録したドキュメンタリー。

2／11（木、休） 広島市東区民文化センター・スタジオ1

◇非正規・貧困・戦争の世の中をひっくりかえせ！

2・14国鉄闘争集会

ＪＲ（国鉄）を中心に、民営化・外注化・非正規職化と闘っている労働組合が中国・四国地方から集まります。

2／14（日） 広島工大広島校舎5階